



平成 24 年 9 月 11 日
独立行政法人国立科学博物館

江戸・明治期に描かれた「博物図譜」を新たに 118 点発見

独立行政法人国立科学博物館（館長：近藤 信司）で、江戸時代から明治時代に描かれた動物の博物図譜（※注）が、新たに 118 点見つかりました。平成 23 年度に、新宿地区にあった当館の研究部（研究室や標本資料等）が筑波地区へ移転いたしました。その際に発見されたものです。

今回発見された博物図譜のうちの多くは、国立科学博物館の前身である教育博物館・東京教育博物館時代（明治 10 年～22 年）に描かれたもので、明治 22 年に帝国博物館（現在の東京国立博物館）天産部に移管されました。その後関東大震災後に、自然史標本とともに、一部の博物図譜が東京博物館（現在の国立科学博物館）に再び移管されたという経緯があります。

発見された 118 点中の 61 点が日本画の技法で描かれたもので、その中には絹本（けんぼん）という、絹に描かれた作品が 7 点含まれています。その他 57 点が洋画の技法で描かれたものです。

博物図譜とともに移管された「列目録」によると、日本画は中嶋仰山、服部雪齋、岩崎灌園らによって描かれた作品であり、また洋画は平木政次、横山慶次郎によって描かれた作品であることが確認されました（別紙参照）。

第二次世界大戦の際、博物館の資料を近県に疎開させた際の混乱により、これらの図譜の行方を正確に把握することは困難となっておりますが、これまでに 176 点が確認されておりました。今回発見された資料をあわせると、合計 294 点が確認されたことになります。

発見された博物図譜は損傷をしているものが多いため、今後、詳細な調査、修復を行っていく予定です。

※ 博物図譜とは、科学的な視点から動物や植物を描いたもので、江戸時代から明治時代にかけて多く描かれている。写真技術が普及される以前、対象物に関する情報を他者に伝えるために、あるいは記録として残すために、非常に微細に写実的に描かれているものが多い。また、名称や産地など、対象物に関する情報があわせて記載されているものもあり、これらは当時の日本の自然を垣間見ることができる貴重な資料となっている。

本件についての問合せ

独立行政法人 国立科学博物館

経営管理部研究推進・管理課

担当：濱村 伸治（はまむら しんじ）

（筑波研究施設）〒305-0005 茨城県つくば市天久保 4-1-1

TEL: 029-853-8901（代表） FAX: 029-853-8998

E-Mail: hamamura@kahaku.go.jp

<国立科学博物館ホームページ> <http://www.kahaku.go.jp/>



動物写生図（絹本）（60cm×38cm） 紀正民 画



五色鯛写生図（41cm×22cm） 横山慶次郎 画



鳥類写生図 (37cm×28cm) 平木政次 画

【今回発見された図譜の作者（「列品目録」の記載に基づく）】

○日本画（61点）

中嶋仰山	27点	紀正民	7点	高野則明	5点
服部雪齋	2点	伊藤熊太郎	2点	岩崎灌園	1点
作者不詳	17点				

○洋画（57点）

平木政次	31点	横山慶次郎	26点
------	-----	-------	-----